

新憲法下において即位礼と大嘗祭とを同時に挙行するという問題、既

に「大喪」時に見られた過剰警備の問題等々の矛盾点を含みつつ、今秋

の「平成大礼」を迎えるとしている。一九二八(昭和三)年十一月の「昭

和大礼」は、十五年戦争の開始を目前にした、天皇制国家への民衆統合

と動員のための最大の儀式であった。その記録は多数残されているが、

その中から主要な三著作四巻を復刻し、「昭和大礼」の実際の姿を検証

し、あわせて、「平成大礼」の問題点をえぐり出す資料として刊行する。——不<sup>一</sup>出版

一九九〇(平成二)年九月

●推薦——田中真人・中島三千男・由井正臣

●解説——荻野富士夫・西秀成・藤野豊

B5判・上製本・函入  
全4巻・総2,512頁  
全4巻=95,000円  
(消費税を含みません)  
別冊1

●復刻版概要——

# 昭和大礼記録資料 全4巻

別冊1

第1巻=昭和大礼要録  
内閣大礼記録編纂委員会刊

第2巻=昭和大礼警備記録(上)  
内務省警保局刊

第3巻=昭和大礼警備記録(下)  
内務省警保局刊

第4巻=昭和御大礼衛生記録  
内務省衛生局刊

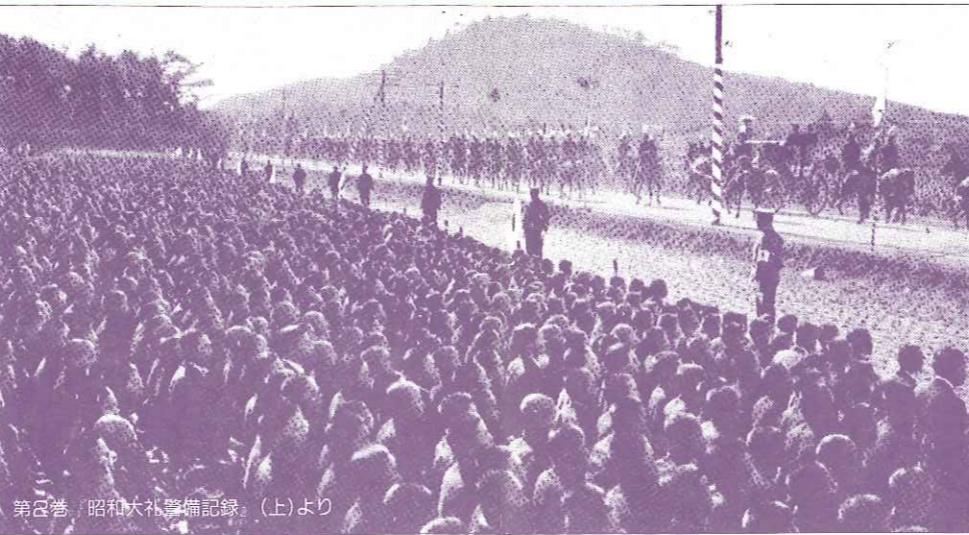


# 天皇制を国民の議論の俎上に

田中  
真人

巨大な国民統合的機能を果たす

中島  
三千男



昭和大社警備記録（上）より

「平成大札」を見据える記録として

由井  
正臣

長い天皇制の歴史のなかで、「代替り」儀式としての即位礼と大嘗祭が「大礼」としてひとくくりに行なわれたのは、「大正」と「昭和」という二回だけの新しい「伝統」である。そして、この秋、もう一つの事例が加わるわけである。のちの時代からは「平成大礼」とよばれるものである。

「大喪」が天皇死去後、約五〇日間ほどの準備でおこなわれる「哀悼」の葬送儀礼であるのに対し、「大礼」は約一年間の準備を経て挙行される「慶賀」の「国家最高至重ノ典礼」（内務省警保局編『昭和大礼警備記録』）であるがゆえに、あらゆる点で「奉祝」されねばならなかつた。一九二八（昭和三）年一月の「昭和大礼」は、植民地を含む全国の津々浦々から自発的な「奉祝」の声が、あるいは動員・統制された「奉祝」の声がある一方で、天皇制にまつろわぬ人々は抑圧と弾圧を受け、「慶賀」にふさわしい社会の静肅の整備のなかで「穢れ」と認められた存在は極力排除されていった。それらは天皇制のもつ特質にほかならない。しかも、この「昭和大礼」は、十五年戦争を前に、侵略戦争を遂行する体制を確立し、天皇中心の国家意識を高揚させるための最大で最高の儀式として機能したのである。この「大礼」を頂点としつつ、天皇や皇族の行幸啓や諸儀式（「紀元二六〇〇年祭」をもうひとつの頂点とする）は、民衆を天皇のもとに統合し、さらに天皇のために動員させるうえで重要な役割をはたした。

今回復刻される「昭和大礼記録資料」全四巻を概観するとき、そこで展開される約六〇年前の事態が、実は現在の事態として再現されていることに驚く。龟トによる「斎田点定の儀」は今回の「大礼」の宗教性を実感させたし、「昭和天皇在位六〇年式典」や昨年の「大喪」の警備は東京を「戒厳令なき戒厳」状況とした。まだ記憶に新しい長崎県の植樹祭での「豚舎」問題は、衛生の次元で「昭和大礼」時を連想させる。このような「平成大礼」に向けて進行する現代の象徴天皇制の民衆統合・動員の諸問題を見据える記録としても、「昭和大礼記録資料」復刻は今日的意義をもつてゐる。

大札記録資料」（  
早稲田大学教授）

戦前の天皇制国家の国民統合においては、二つの「代替り儀式」（昭和天皇即位式、一九一二〇四年）と「大禮要録」（東京市）等の各府県レベルの記録や「大嘗祭主基斎田写真帖」（福岡県）などの写真集が詳しい。また、「昭和大礼要録」や各府県レベルの記録の編纂にあたって集めた史料、稿本などの発掘、刊行も期待される。

ただ、この国民統合的機能の凄まじさについては、より直接的には、「昭和大礼愛知県記念録」や「昭和大礼奉祝誌」（東京市）等の各府県レベルの記録や「大嘗祭主基斎田写真帖」（福岡県）などの写真集が詳しい。また、「昭和大礼要録」は、裕仁の即位儀礼についての基本的文献であり、一つひとつ儀式の持つ意味や、その規模、費用などが、順をおつて解説されている。ただ、いま述べたような国民統合機能という点では、卷末の都道府県における記念事業の一覧などに、それが窮われるだけであり、その意味で「昭和大礼警備記録」や「昭和御大礼衛生記録」も併せて復刻されたことの意味は大きい。この二冊の記録から、裕仁の即位儀礼にあたつて、国家がいかに凄まじい執念を持つて取り組んだのか、またこの即位儀礼に国民一人ひとりがいかに組込まれていったのかが、手にとるようにわかる。

そして、この「代替り儀式」を含む、国家的儀式の国民統合的機能の巨大さは、つい二年前、わたしどもが裕仁の「容体」急変から、死、そしてその葬儀という過程において体験した如く、今日においても尚、あてはまる事であつた。今また、明仁の「即位の礼」・「大嘗祭」を目前に控えて、不二出版より「昭和大礼記録資料」（全四巻）が復刻されたことは、歴史研究の上においても、また日本における民主主義の発展という点からも、実に時宜に適つたものといえよう。

「昭和大礼要録」は、裕仁の即位儀礼についての基本的文献であり、一つひとつ儀式の持つ意味や、その規模、費用などが、順をおつて解説されている。ただ、いま述べたような国民統合機能という点では、卷末の都道府県における記念事業の一覧などに、それが窮われるだけであり、その意味で「昭和大礼警備記録」や「昭和御大礼衛生記録」も併せて復刻されたことの意味は大きい。この二冊の記録から、裕仁の即位儀礼にあたつて、国家がいかに凄まじい執念を持つて取り組んだのか、またこの即位儀礼に国民一人ひとりがいかに組込まれていったのかが、手にとるようにわかる。

そして、この「代替り儀式」を含む、国家的儀式の国民統合的機能の巨大さは、つい二年前、わたしどもが裕仁の「容体」急変から、死、そしてその葬儀という過程において体験した如く、今日においても尚、あてはまる事であつた。今また、明仁の「即位の礼」・「大嘗祭」を目前に控えて、不二出版より「昭和大礼記録資料」（全四巻）が復刻されたことは、歴史研究の上においても、また日本における民主主義の発展という点からも、実に時宜に適つたものといえよう。

される。

内閣書記官長	樺山一郎
内閣統計局長	長谷川赳一
法制局長官	法制局次官
法制局次官	金森徳次郎
宮内大臣	關屋貞三郎
宮内省參事官	(昭和八年四月一日任命) 渡部信芳
同	(昭和九年七月一日准許) 酒巻芳里
宮内書記官	(昭和九年八月一日准許) 武宮雄彦
宮内事務官	(昭和九年九月一日准許) 大木尊雄
同	(昭和九年十月一日准許) 浅田憲一

第1巻『昭和大礼要録』より

# 昭和大礼記録資料 全4巻・別冊1

## ●復刻版概要

第1巻 昭和大礼要録

内閣大礼記録編纂委員会・昭和6年刊・728頁

第2巻 昭和大礼警備記録(上)

内務省警保局・昭和4年刊・536頁

第3巻 昭和大礼警備記録(下)

内務省警保局・昭和4年刊・542頁+地図16点

第4巻 昭和御大礼衛生記録

内務省衛生局・昭和4年刊・706頁

別冊 昭和大礼記録資料 解説

(これのみ分売可)

判型等 B5判・上製本・函入・総2,512頁

本体価格 全4巻・別冊1 95,000円

(消費税を含みません)

## ●別冊分売のご案内

### 昭和大礼記録資料 解説

荻野富士夫・西秀成・藤野豊 共著  
B5判・並製・90頁・本体価格 1,500円 (税別)

(目次)

第一章 『昭和大礼』と国民——『昭和大礼要録』を中心として——西秀成

分析を経て、民衆統合の問題、警衛警備の問題、民衆の生活・健康のレベルにまで介入する権力の問題等をえぐり出し、同時に、「平成大礼」のもつ意味をも考える資料を提供する。本資料収載の三者以外の大礼関係資料を

も多数使用し、今日の状況をあわせ考えるための好著。『昭和大礼記録資料』全4巻と同時に刊行し、本『解説』のみの分売も致します。

第二章 『昭和大礼』と天皇制警察——『昭和大礼警備記録』を中心に——荻野富士夫

# 不<sub>一</sub>出版

本カタログ中の表示価格は、全て消費税を含んでおりません。

※弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。

振替

東京都文京区向丘一一二一二  
TEL 〇三一八二二一四四三三  
FAX 〇三一八二二一四四六四  
へ東京六一九四〇八四

はじめに 一、衛生対策の基調 二、衛生対策の諸相 おわりに